

# 奥村土牛略年譜

- 一八八九年二月一八日出版社藍外堂を営む奥村金次郎・たまの長男として東京市京橋区精町(現京橋一丁目)に生まれる。本名・義三
- 一九〇五年(十六歳)梶田半古塾入門、塾の先輩に小林古径、前田青邨など。
- 一九一七年(二十八歳)師・梶田半古逝去。藍外堂より木版集「スケッチそのおりおり」刊行、この時から土牛と号す。
- 一九二〇年(三十一歳)古径の画室に住み込み師事する。
- 一九二一年(三十二歳)中央美術社展に「乙女椿」入選。
- 一九二六年(三十七歳)速水御舟の研究会に参加。
- 一九二七年(三十八歳)院展に「胡瓜畑」が初入選。
- 一九二九年(四十歳)徳島県生まれの森仁子と結婚。
- 一九三二年(四十三歳)日本美術院同人に推挙される。
- 一九三五年(四十六歳)六六年(七七才)帝国美術学校(現・武蔵野美大)教授。
- 一九三六年(四十七歳)第一回帝展で「鴨」が推奨第一位となり、名実ともに評価が定まる。
- 一九三八年(四十九歳)院展の親友・酒井三良と写生旅行。これは三良が没するまで続く。
- 一九四〇年(五十一歳)肺炎で一時重体となり半年療養。
- 一九四一年(五十二歳)「遅日」を院展に出品。
- 一九四四年(五十五歳)東京美術学校(現・東京芸術大学)講師となる。(一五一年)。  
文展に「信濃の山」出品、政府買上げとなる。  
家族を長野県白田に疎開させる。
- 一九四七年(五十八歳)帝国芸術院(現・日本芸術院)会員に推挙される。  
十一月長野県南佐久郡穂積村に移る。
- 一九四九年(六〇歳)女子美術大学教授となる。
- 一九五一年(六二歳)疎開先の信州から杉並区永福町に転居する。
- 一九五三年(六四歳)六六年(七七歳)多摩美術大学教授 となる。
- 一九五五年(六六歳)「城」を院展に出品。
- 一九五七年(六八歳)兄弟子で恩師の小林古径逝去。
- 一九五九年(七〇歳)「鳴門」を院展に出品。
- 一九六〇年(七一歳)朝日新聞社主催奥村土牛自選展に四七点出品。
- 一九六二年(七三歳)文化勲章受賞。
- 一九七二年(八三歳)「醜聞」を院展に出品。
- 一九七三年(八四歳)奥村土牛展開催、八五点出品。
- 一九七四年(八五歳)日本経済新聞社より自伝「牛のあゆみ」出版。
- 一九七七年(八八歳)「吉野」を院展に出品。
- 一九七八年(八九歳)日本美術院理事長となる。
- 一九七九年(九〇歳)山種美術館で奥村土牛展開催、九五点出品。
- 一九八〇年(九一歳)東京都名誉都民の称号を贈られる。
- 一九八一年(九二歳)最後の大作「海」を院展に出品。
- 一九八二年(九三歳)盲腸炎手術、翌年まで約三か月病臥。
- 一九八七年(九八歳)山種美術館と京都市美術館で白寿記念展開催。
- 一九八八年(九九歳)白寿記念に天皇陛下より銀杯、皇太子より御所の紅白梅を賜る。  
翌年にかけて百歳記念展を東京、豊橋、横浜で開催。
- 一九八九年(一〇〇歳)NHKより「百歳の富士 奥村土牛」放映。
- 一九九〇年(一〇一歳)院展に「平成の富士(絶筆)」を出展。  
五月二〇日、信州八千穂村に「奥村土牛記念美術館」開館。  
九月、パリで東京都主催奥村土牛・中川一政二人展開催。  
九月二五日、逝去。一〇一歳七カ月  
十月二日、従三位に叙せられる。  
十月十一日、東京築地本願寺にて日本美術院葬を行う。